

「演劇作品制作クラス」授業実践報告：  
コミュニケーション学習としての演劇制作活動

中山由佳

発表者は、2005年より早稲田大学日本語教育研究センター設置科目である「演劇作品制作クラス」（中級～超級対象：週1コマ×15週）を企画・担当し、留学生によるオリジナル作品の制作・上演を目標とした活動実践を行っている。本発表では、特に2007年および2008年度の実践を中心に報告・考察を行う。

まず、本実践の概要を説明し、授業活動のプロセス（①シアターゲーム②台本作り（ディスカッション・即興）③練習④上演会）を追いながら、見えてきたことを報告する。

①シアターゲームは、アイスブレイキング及び創作活動の準備を意図して導入された。アイスブレイキングという点では、楽しい雰囲気の中で身体を動かしながらコミュニケーション活動を行うことによって、学習者の中の垣根が少し取れるといったことが見られた。また、イメージの拡張という点では、身体を動かすことによって、座って頭で考えるのとは別のイメージ創出することができたようである。

②ディスカッション（テーマ／メッセージ、ストーリー、台本）、③練習、④上演会は、一つの作品をグループで作りに上げていく一連のプロセスである。2007年度においては、グループディスカッションですすめていき、2008年度では、即興を取り入れながらすすめていった。一つの作品を作る上での困難さの中で、それぞれ異なる方法でいかに活動が進んでいったのかを報告する。

発表者は、本活動を自由度の高い語学学習クラスであるのみならず「コミュニケーション実践学習」の場であると考えたい。本発表では、文化背景の異なる学習者が、いかに調整活動を行って、グループ1つの作品を完成するに至るのかをたどりながら、その意義を考察する。